



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内281)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.529
所長 本多直也
発行 平成28年9月10日
日字 山田 恭正 教育長



五年生中池自然の家合宿
『四つの誓いを胸に』
撮影者 泉小学校 岡 龍郎 先生



「既読スルー」

土岐市教育研究所長 本多直也

今年のサマーセミナーで、LINE株式会社の方を講師に情報モラルの講座を開きました。学校においては、「LINE」の利用が、生徒指導上トラブルの原因となっていることをよく聞きます。その中でも、よく問題の要因として挙げられるのが、「既読スルー」です。しかし、講座では中高生は「既読スルー」ではなく、「終わらないLINE」を嫌だと思っているアンケート結果を示されました。いつまでも話が終わらず、その結果やりとりが深夜に及ぶことに自分たちでも危機意識をもっているようです。

さて、この「既読」の機能、誕生のきっかけは東日本大震災だったとのこと。電話がつながりにくい中でも「大切な人と連絡を取れるサービスが必要だ」と判断。急ピッチで開発し、3カ月後にサービスを始めたそうです。相手に返信する余裕がなくても、既読と分かれば安心する。そんな思いを込め、この機能が考えだされたようです。

このことに限らず、歴史をみても、大きな出来事の「教訓」を生かし、様々な工夫や改善を進めて人々の暮らしを整えてきました。ある靴メーカーは、6時間歩いて帰宅した地震の経験から、「疲れにくい中敷き」を開発したとのこと。

学校においても、全国で起きている事案を教訓に教育活動を改善し、安心・安全な活動が充実するように工夫しています。今年話題になった組体操の見直しの取組もその一つです。もう一方で、学校では、「アンテナを高くして」子どもの動きをキャッチしましょうと言われる。これは起きることを予測して対応を考える、いわば「予知」することを指しています。新学期を前に、自分の命を絶つニュースが流れました。学校では「起きてからでは遅い」ことがいくつかあると思います。

「教訓」と「予知」学校には両方が必要です。
(2016年3月12日朝日新聞デジタル参照)

切り拓く力を高めつつ、自分のよさや成長に気づかせよう

中京学院大学 特任教授 磯村 義幸

私は、現在、中京学院大学で短期大学部の教職希望の学生達を主に、戦後の教育課程の変遷を辿る「教育課程論」や「教科教育方法」「生徒指導法」等を教えています。教えた学生の中には、土岐市の中学校で学級担任を務めている方もあり、子ども達が学ぶ充実感を持ち成長を実感できる指導・支援と子ども達が共に肯定的に認め生かし高め合う学級づくりに努めてほしいと願っています。

さて、高校生の過半数が進学する今日、大学生について、「思索しない・読書をしない・アルバイトとスマホと遊びばかり・幼くて礼儀が身につけていない・コミュニケーション力がイマイチ・・・」といった声を耳にします。しかし、私が接している学生は、実に素直で人なつっこく、教室に入ると挨拶で溢れます。アルバイトをしている学生は多いのですが、授業にはきちんと出席します。

短期大学部の学生達は、毎年1年が終わる頃、就職の心配をする学生が多くなります。内容は、「就職できるか」「希望職種に就けるか」「就職をどのように決めていったらよいか、わからない」「希望の所に就職できるか」「自分は何に向いているか、わからない」「仕事を続けられるか」といったことを挙げます。心配なのは、「就職をどのように決めていったらよいか、わからない」「自分は何に向いているか、わからない」と言う学生達です。

現在、厚生労働省は、全国の大学や短大と連携して、「就職をどのように決めていったらよいか、わからない」と悩む学生に対して、「新卒応援ハローワーク（ハローワークジョブサポーターによる就職支援活動）」を行っています。平成24年度に、厚生労働省が東京都内にある一部の大学や短大で試行し、それを踏まえて平成25年度から全国的に始めた事業です。毎年4月になると、ハローワークは、ジョブサポーターと呼ぶ専門担当者を各大学に派遣し、学生の就職相談に乗り、求人情報を提供したり、エントリーシートの書き方の相談

に乗ったりして、学生の就職を支援している事業です。本校も、平成25年度から学生支援部に窓口を開設して以来、「就職をどのように決めていったらよいか、わからない」と言って一步を踏み出せないでいる学生に大きな励みになっています。

今一つ心配なのは、「自分は何に向いているか、わからない」と言い一步を踏み出せない学生です。彼らは、就職相談はハローワークが行うことを知っていても、ハローワークの活用にまで一步を踏み出せないのです。評判や家族の考えで就職を決めようとする学生もいます。自分の進路まで、周りに依存するのです。人は、自分のよさを発揮してこそ、やりがいを持てるものです。

「汝自身を知れ！」教職を志した者は、誰もが学んだ言葉だと思えます。古代ギリシャ・アテネのデルフォイの神殿に刻まれた言葉で、ソクラテスが座右の銘にして弟子達に教えた言葉と言われます。しかし、この言葉の解釈は、私達が学生時代に教わった内容とは変わってきています。私達は、「自分自身を見つめ、自分自身を知り、長所と短所を見つめ、自分を変えるために、短所を正しなさい。」と教わりました。しかし、現在では、「自分自身を知ること、認識することは必要だが、それは、自分を変えるためとか、自分を正すためではなく、自分自身を知ることが目的である。それは、自分に何ができるかがわかるために、または何かに役立てる自分のよさを知るために、自分を知ることである。」と、かつて少数意見とされていたフランスの哲学者・シモーヌ・ヴェーユの解釈が主流になっています。この社会で役立つ自分のよさに気づかせ、自分に誇りを持たせ、後押しすることが求められていると考えます。

今、学生達は勿論、子ども達には、義務教育時代から、とりわけ進路指導が胸に響き始める頃から、様々な場で自分のよさや成長に気づかせ、社会に力強く踏み出させていきたいと考えます。

「自分の考えをもち、意欲的に学び合う子」を目指して

駄知小学校 教諭 戸谷 美由紀

平成 26 年度より、土岐市研究推進指定を受け、今年度は3年目の取組になりました。昨年度までの研究の成果と課題をふまえた、今年度の取組を紹介します。

平成 26 年度 研究主題

「自分の考えをもち、意欲的に話せる子の育成」

平成 27 年度 研究主題

「自分の考えをもち、意欲的に話し合う子の育成」

【昨年度の研究の成果と課題】

- 自分の考えのつくり方を知り、仲間の考えに対して、自分の立場を明らかにしながら話せる児童が増えた。
- 仲間の考えと自分の考えを比較しながら聞き、仲間の考えから新たな学びを得たり、考えを深めたりしていく姿には弱さがある。

「話し合う子」から「学び合う子」へ

平成 28 年度 研究主題

「自分の考えをもち、意欲的に学び合う子の育成」

【研究主題に迫るための主な取組】

○国語科「読む」(文学的文章)を通して

〈研究内容 1 : 指導計画の工夫〉

- ①学習の系統性と、つきたい力を明確にした系統図・指導計画の作成
- ②児童が見通しをもって学習に取り組むための単元指導計画の工夫

〈研究内容 2 : 指導・援助の具体化〉

- ①叙述に基づいて自分の考えをもつための指導・援助の工夫
- ②意欲的に学び合うための指導・援助の工夫

○学習の基盤づくり

- ①学習規律の確立
- ②発表スキルトレーニング
- ③学級集団づくり

国語科「読む」(文学的文章)での実践

〈研究内容 1 : 指導計画の工夫〉

①学習の系統性と、つきたい力を明確にした系統図・指導計画の作成

- ・児童の意識(国語科学習アンケート)・児童の実態(学習状況・テスト結果)・教材系統図(昨年度作成物)の3点を照らし合わせることで、単元におけるつきたい力を明確にした指導計画を作成した。

②児童が見通しをもって学習に取り組むための単元指導計画の工夫

- ・研究内容 1-①で明らかにしたつきたい力をつけるためにふさわしい言語活動を設定し、第1次で本単元の言語活動を紹介することで、学習の見通しをもてるようにした。

第1回全校研究会 5年生
単元名「本の帯をつくり、
おすすめ本をしょうかいしよう」
教材名「なまえつけてよ」



第2次で学んだことを生かした、第3次における並行読書教材での本の帯作り

〈研究内容 2 : 指導・援助の具体化〉

①叙述に基づいて自分の考えをもつための指導・援助の工夫

- ・言葉に着目させるための手立て、言葉から読み取るための手立てを、「注目する言葉」「読みの手」として統一した。1年生から段階的に積み上げることで、児童の学びが連続するようにした。

注目する言葉

- ①気持ちを表す言葉 🗨️ 🧐 🤔
- ②思ったこと ❤️
- ③話したこと 🗨️
- ④したこと(行動・動作・表情) 🏃 🗨️
- ⑤見たこと 📷
- ⑥まわりの様子 🗨️

【読みの手】(高学年)

- ①なくして
- ②おきかえて
- ③くらべて
- ④つなげて
- ⑤絵や図を見て
- ⑥辞書で調べて



②意欲的に学び合うための指導・援助の工夫

- ・児童が学び合いを深めるために必要なことを次のように整理した。そして学び合いの「目的・手段・方法」を明らかにして、単位時間の中に効果的に位置づけた。

- ①考えの理由を話せること。
- ②自分の考えと仲間の考えを比べて、共通点・相違点を明らかにしながら聞けること。
- ③仲間に質問ができること。
- ④仲間との交流で新たに分かったことや、考えが変わったことを話せること。



第2回全校研究会 3年生
単元名「読んで、かんじたことを発表しよう」
教材名「もうすぐ雨に」

作品の中で自分がおもしろいと思ったところを理由づけて話し、互いの考えに意見を述べ合う児童の様子。

平成 28 年 10 月 27 日(木)に研究発表会を開催します。本校の取組を是非ご覧ください。

本校研究主題

練り合い高め合う生徒の育成 ～課題探究能力を高める授業の創造～

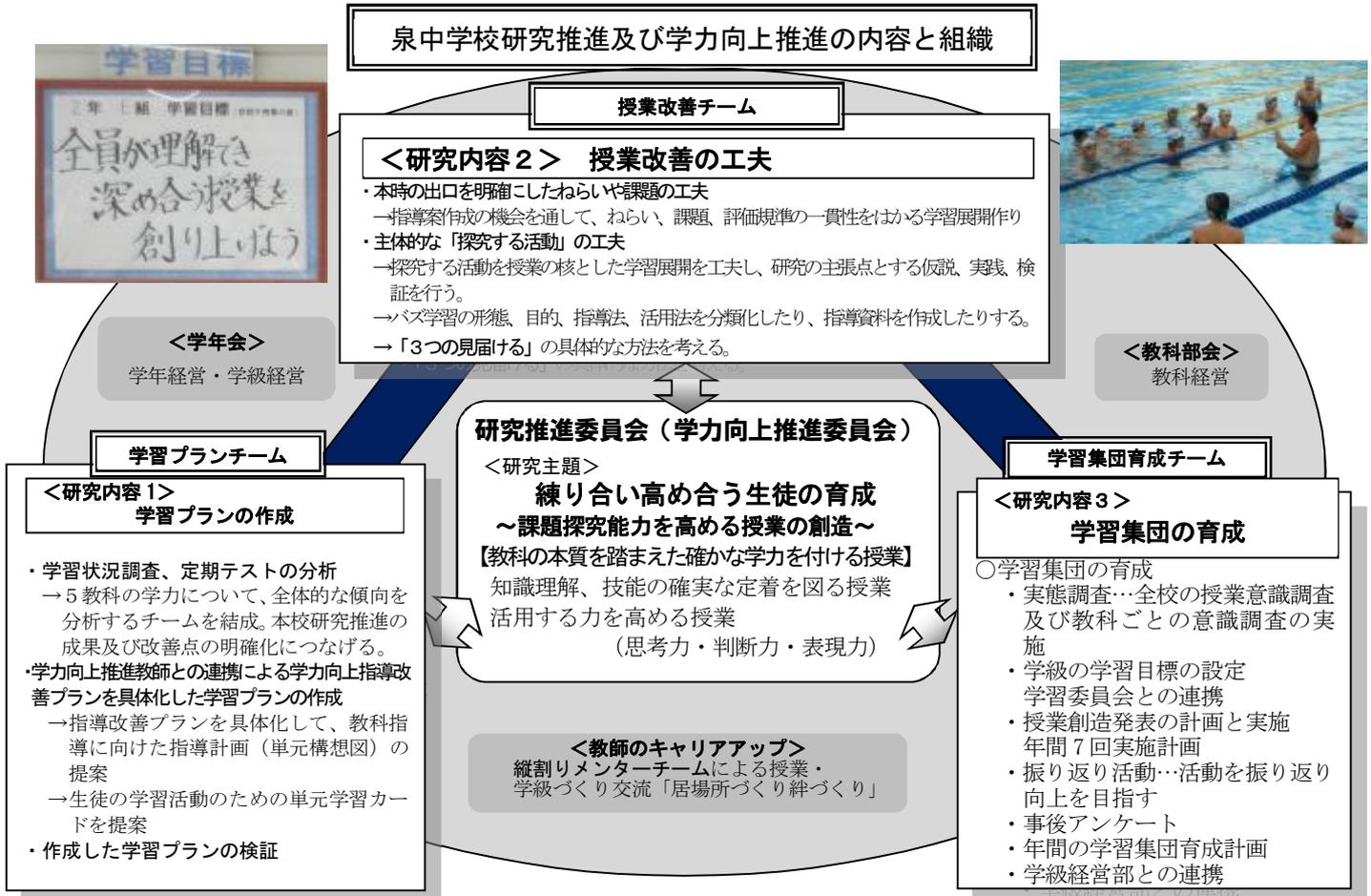
本校では平成26年度（研究初年度）より次の姿を目指して取り組んできた。

生徒が問題意識としてとらえた課題に対して、自力で解決（追究）するための手段（方法）を工夫し取り組み、課題達成に至る姿

本校ではこの力を、「課題探究能力」と定義する。生徒が課題意識を見出し、課題達成に至るには学習集団として本時に身に付ける力や解決すべき課題を自ら取得しようとする意識や意欲の高まりが必要であると仮定した研究である。

この取組は、教師及び生徒がそれぞれの立場で試行錯誤し改善を繰り返し身に付けるものであると考えているため、課題探究能力を高めていくことが本校の研究主題である「練り合い高め合う生徒の育成」を実現できるものであると考えた。これらの取組は「探究する活動」を授業の核とすることで生徒一人一人の知識・技能の習得及び思考力、表現力、判断力、コミュニケーション能力、言語活用能力等の充実を図るものである。本校では学力向上推進との連携を図り全職員で組織された研究体制を整備して取り組んでいる。

泉中学校研究推進及び学力向上推進の内容と組織



現在までの研究の成果と今後の見通し

	学習プランチーム	授業改善チーム	学習集団育成チーム
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○全校研究構想研修会、チーム提案全校研究会3回（英語、社会、保健体育）の実施による段階的な研究推進と共通理解 ○チーム会議→教科部会→研究推進委員会→研究職員のサイクルによる研究推進体制の構築と実行 ○チーム提案を反映した全校研究会の実施及び、研究会におけるチーム別研究討議（提案事項を視点とする）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回全校研究会授業改善チーム提案 保健体育科による探究する活動を核とした授業改善 ○指導案の展開案について提案との整合性を図る検討会の実施 ○全校研究会で単位時間の指導において導入の工夫、課題設定、学習活動形態の意図的な工夫の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回全校研究会内学習集団提案 英語科において学級担任による学習集団育成の取組及び抽出生徒の経過観察による取組の妥当性の検証 ○各学級における「学習目標」の作成 ○授業に対する生徒の意識調査の実施 →全校研究会において生徒の姿から学習集団としての成果を分析
各チームの提案	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全校研究会学習プラン提案 社会科による県学力学習状況調査の分析や本校の課題探究能力育成を具現化する単元構想図作成の提案 →全校研究会での指導構想図作成によって、分析結果の具現を図る。 →本発表に向けた単元構想図の提案 		
今後の研究	<ul style="list-style-type: none"> ○全校研究会での研究内容の段階的な検証、成果の及び、改善事項の検討を行い、具体的な研究推進の方向付けを行う。 ○改善内容を基に東教推・市指定発表（11月）において、3年間の研究成果を授業実践及び研究会で明確にする。 ○今年度の成果を各教科及び研究内容ごとのチームでまとめ、次回発表を見据えた来年度の方向付けを行う。 		

I 学力分析などによる児童生徒の実態について

《H27.4 全国学力・学習状況調査》➡《実態からの対策》➡《H28.1 岐阜県学習状況調査》

○国語Aは、全国・県の平均正答率を上回っていた。
 △算数Bは、全国・県平均正答率を大きく下回っていた。
 △どの教科においても、全国・県に比べて無回答率が非常に高かった。

・無回答をなくす。
 ・記述問題や筆記問題に自信をもって粘り強く取り組む。
 ・解答方法に慣れる。
 ⇒ローマ字など苦手な学習の学び直しを意識的に行った。
 ⇒授業の中に、類似問題に取り組む時間を設けた。

○全ての教科において、県平均正答率を上回った。

II 分析の結果から、指導改善の重点について（共通理解して取り組んでいること）

全職員の意識改革

- ・「研究推進委員会」→「学力向上推進委員会」名称変更
- ・授業改善のために、授業研究会を行い、日常化を図る。

家庭との連携

- ・家庭学習の在り方の共通理解
- ・実態把握→家庭への啓発

授業改善

- ・授業改善プラン5の実践（①必然性のある課題づくり②意欲を高める教材・教具の工夫③身につけさせたい力の吟味④指導・援助の工夫⑤定着や習得をめざす工夫）
- ・確実に3つの見届け（実態・学習状況・定着状況）をし、45分間完結の授業を行う。
- ・全職員共通指導事項4つの実行（課題は赤チョーク・まとめは青チョーク、机列表による見届け、重点指導児童）

III 学力向上計画訪問の視点と具体的な指導・援助などの手立て

研究授業 6年生 算数科「分数のわり算」

〈ねらい〉除数が分数の除法の計算を、数直線図や計算のきまりを活用して考える活動を通して、分母と分子を入れかえた逆数を乗法すればよいことに気付き、除数が分数の除法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

実践内容 学びが実感できる指導援助の在り方（⑤定着や習得をめざす工夫）

⇒**視点** 類題（りんご問題）を数直線や式で書いたことは、分数÷分数の計算方法が「できた」「分かった」と実感することに有効であったか。⇒どうすれば、「できた」「分かった」につながったか？

- ・事前調査やレディネステストによる実態把握、考え方の手がかかりや意欲につながる数直線のヒントカードは有効であった。
- ・既習事項のおさえが足りなかった。学習状況の見届けとして3つの視点をもっていたことは良かったが、時間が足りず、見届けることができなかった。
 ⇒定着状況に応じて、必要な学び直しをし、本時追究できるだけの力をつけておく必要があった。
- ・なぜかけるのか（×）、なぜ割るのか（÷）、意味が分かっていたいなかった。
 ⇒全体で確認しながら矢印を書き込んだり、なぜそうなるのかを言葉で説明させたりすることで理解につなげたい。それぞれの考えの違いや根拠をていねいに押さえることも有効である。

IV 学力向上計画訪問における成果と課題（授業改善にかかわって、現時点での成果と課題）

成果

- ・本時の出口で目指す児童の姿を明確にもち、「3つの見届け」について具体的な視点をもって授業を組み立てることができた。
- ・教師の発問によって、学習状況を把握したり、児童に判断を迫り、主体的に取り組ませるきっかけをつくったりすることができた。

課題

- ・児童及び教師の意識調査（アンケート）を定期的実施し、授業改善に生かす。
- ・本時までにつけておくべき力を明確にし、個に対する補充、学び直し、定着の時間の確保を図る。
- ・学力を向上させるため、家庭学習の習慣化と質の向上を全校体制で目指す。

I 学力分析による児童生徒の実態について

平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果から分析した児童の実態は、以下の通りである。

県学習状況調査の結果から、学力は国語A、社会で県の平均よりやや高い。

→教科担任制による授業や、家庭学習などくり返し取り組むことで成果が上がってきている。

全国学力・学習状況調査の結果から、本校の学力は国や県の平均よりやや低い。

→国語、算数ともに知識の力に弱さが見られる。

活用では、キーワードを使って短い文章にまとめたり、資料をもとにして文章に書き表したりすることに弱さがある。

課題に対する自分の考えを文章にまとめたり、資料から読み取ったりする力に弱さがあることが分かった。授業だけでなく、家庭学習や補足的な学習でも力を付けていくために、昨年度の取組の成果をもとにしながら実践を進めている。

II 分析の結果から、指導改善の重点として（共通理解して取り組んでいること）

〈学習習慣づくり〉

- ・話す・聞く姿勢づくり
- ・ノートの使い方
- ・学習ルール
(交流活動等)

〈授業改善〉

- ・出口の姿を明確にした課題設定
- ・児童の実態に応じた学習過程の工夫
- ・個の学習状況を把握する場や方途の工夫と、つまづきに応じた指導の工夫
- ・達成状況を把握する方途の明確化

〈補足的な学習の充実〉

- ・土岐津っ子タイムの位置付けと個に応じた指導
- ・家庭学習の充実

III 学力向上計画訪問の視点と具体的な指導・援助などの手立て

研究授業 5年生 社会科『わたしたちの生活と食糧生産』

ねらい：一色町漁業協同組合の鈴木さんたちが、うなぎの池入れ量を月別に変える理由を追究する活動を通して、うなぎの消費量に合わせて生産を調整していることに気付くことができる。

視点

本時、身に付けたい力（よく消費される時期に合わせて、多く生産しようとしているということをとらえること）が付いているか。

→まとめを記述する前に、ペアで本時分かったことを話し合う場を位置付けることで、自分の考えを確かに行うことができた。また、全体の場で資料を指し示しながら交流することで、考えの根拠を明確にし、まとめを書く活動につなげることができた。



IV 学力向上計画訪問における成果と課題

成果

- ・教科担任制を導入し、教材教具の工夫や指導内容・方法を改善してきたことで、児童が教科の楽しさを実感しながら意欲的に取り組むことができるようになってきた。
- ・児童の実態をもとに単元構想を工夫したことにより、既習学習とのずれから必然性のある課題を設定することができた。
- ・まとめをノートに書く前にペアで伝え合う活動を位置付けることで、本時の自分の高まりを実感したり、仲間の考えから自分の考えをより確かなものにしることができた。

課題

- ・児童に力を高めたり、さらに主体的な活動を生み出したりするために、さらに言語活動を充実させる。教科や単元の特質に応じて、場や方法を工夫していく。
- ・本時の評価規準を達成していない児童への学習支援の在り方を考えたい。
- ・どの授業でも大切にすることを全職員で共通理解し、指導しきる授業づくりを今後も進めていく。

「私の教育実践」

音楽の楽しさを伝える

土岐津小学校 教諭 安藤 律子

私は、音楽の授業の中で、子どもたちの心が動く瞬間を大切にしています。

私はよく子どもたちに、「お気に入りの曲は何？」と聞きます。テレビでよく流れる曲や習った曲など、選ぶ曲も様々です。さらに、どうして気に入ったかを聞くと、心が動いた瞬間が見えてくる時があります。

人は様々な音楽や何気ない音を耳にした時、「いい曲だな」「きれいな音だな」と素直に感じたり、「歌ってみたいな」と憧れをもったりします。これが、心が動く瞬間です。また、自分で演奏できた時はできた喜びを感じ、音楽の楽しさを実感できると考えています。

音楽の授業という、正しく歌ったり演奏したりすることに終始してしまいがちです。子どもたちが楽しく音楽にかかわりながら、技能を身に付け、よさや面白さ、美しさを味わうことができるように、「聴く」ことを意図的に位置付けています。

新しい曲を聴く時は、「どんな感じがした？」「どうしてそう感じたの？」と尋ねます。鑑賞曲に限らずどの曲でも同じです。子どもたちは、体でリズムを取ったり、体の動きで表現したりしながら音楽を感じています。みんなで合わせる時は、互いに聴き合ったり、録音して聴いたりします。そして必ず「どうだった？」と聞きます。演奏が上手くいかない時もありますが、できた時や前と比べて変わった時は、子どもたちの表情が変わります。心が動く瞬間です。できた・できないだけでなく、どう感じたかを問うことで、「さっきよりきれい」「元気ではずんでる感じがする」「もっと～したいな」と、自分たちの演奏のよさを感じる姿やさらによくしたいという思いをもつ姿が増えました。

音楽の授業を通して、心が動く瞬間をともに味わい、子どもたちが音楽の楽しさを実感できる授業を、これからも実践していきたいです。

「私の教育実践」

生きていくための家庭科

泉中学校 教諭 水野 はづき

「衣・食・住。この中でいちばん大切なものは何？」生徒にこう問いかけると、さまざまな答えが返ってくる。「服と家は無くても生きていけるけど、食べないと死んでしまう。」「でも服や家が無いなんて考えられない。」議論の末、最後は「全部が同じように大切。」という結論に行き着く。

私たちは当たり前のように服を着て、当たり前のように家に帰ってご飯を食べる。私は、家庭科の授業の中で、衣・食・住を「当たり前」ではなく「生きていくための大切なもの」として真剣に向き合ってほしいと考えている。しかし中学生にとっては、これがなかなか難しい。生活経験の不足や家族形態の変化もあり、自分の生活を家庭科の学習内容につなげて考えることができない生徒がとても多い。そのため、学習する内容に興味を

もち、もっと身近なものとして捉えられるようにしたいと考えた。授業の導入では「こんなふうにできるようになりたい」という憧れや見通しをもたせるために、自作の実演DVDや実物投影機を活用した示範を行った。また、いろいろな布や食品、道具などの実物教材をできる限り用意し、それらを活用した実験などを行い「五感が働く授業」をすることを心がけた。ある日「家の冷蔵庫にあった魚は実習で使った魚と種類が違うけど、同じ味付けでいいのかな？」と質問をした生徒がいた。授業での経験を自分の生活の中で生かそうとしたことで生まれた何気ない疑問がとても嬉しかった。

人が生きていくための知恵がたくさん詰まった教科を指導する責任の重さをしっかりと感じて、今後も工夫をしながら実践を積み重ねていきたい。

子どものよさは、作り出すもの

妻木小学校 校長 加藤 朝巳

40代の初めの頃でした。自分が中心となって学校を動かしているぐらいの傲慢な気持ちがあったかと思います。学校運営や校内研究のことで、先輩の先生方に対しても偉そうな口をきいていました。とても穏やかなY校長先生は、いつも微笑んで、「子どものためになると思うなら、好きなように思いっきりやってみなさい。」と言ってくださいました。ところが、そんな穏やかなY校長先生から一度だけ厳しく指導を受けたことがあります。

研究推進委員会で、今後の研究の方向を決める時でした。いつものように偉そうな口をきき、自分の実践を自信たっぷりに話していました。つい調子に乗って、自分の土俵に乗らない子どもの悪口を言ってしまいました。研推が終わった時、校長室に来るように言われました。

「子どものよさを伸ばそう。よさを引き出そう。といつも言っているあなたが、子どもの悪口を言うてはいけない。どの子にも可能性がいっぱいある。教師にとって都合のいい子だけを対象としてはいけない。子どものよさは、誰にでもあるものではない。子どものよさは、教師が意図的に作り出すものです。」と厳しく注意された後、いつもの穏やかな顔に戻られました。

私はとても恥ずかしかったのと同時に、自分の教師としての在り方を見つめ直すよい機会になったと思っています。それ以来、私の教育に対する考え方の基が、「子どものためになるか」「子どものよさは作り出すもの」となりました。今でも何か迷う時に思い出すのは、あの時のY校長先生の厳しい一言と、その後の穏やかな顔です。

新しいALTを紹介します



9月から土岐市内の幼稚園・小・中学校でALTとして英語の指導をしていただくヴィクトリア・シークマンさん（22歳）です。7月末で退任されたライアンさんの後任として着任されました。

〈担当する学校（本年度後期分）〉

濃南中、駄知中、泉中、濃南小、駄知小、泉小、泉西小
肥田幼稚園、泉幼稚園、泉西幼稚園、浅野教室

Hello, my name is Victoria. I am from Houston, Texas, U. S. A. I enjoy reading, hiking, and traveling. I am excited to work in Toki, and talk with everyone!